

資料室だより Vol.2

No.14 1987.7



大磯町立図書館
郷土資料研究室

大磯町大磯992番地
TEL. 0463-61-3002

盆の十六日に船を出さないわけ

お盆の十六日は、ここいら一帯は船は出ないんだ。仏さんの日だから。ところが、クワナノトクソウって言う人は、とても商売がはげしくって構わず出てたそうだな。そんなときに海坊主がでて「クワナノトクソウ、あんまり商売はげしいぞ。お盆の日くらいは休め」とへって言ったそうだと。それで「オケを貸せ」へって。で、トクソウが「ほれ」せって、いきなりとツルベの底、ボーンと抜いて海ん中へはっばってやったんだ。そんなときに海坊主が船の中の水を汲んで、その船を沈ましちまあつてもりだつたけれど、こつちからいきなりボーンと底を抜いてはっばつたから、そのときは引っこ込んでしまった。——中略——

それで、今度江戸に行くときに、石廊崎の権現様へ願かけたそうだと。「俺は、もうこれで航海行つてこーば船乗りはやめるから、ぜひ一番のりをさして東京湾へ走らしてけえろ。帰って来るときは、この柱（帆柱）あげるから」せってね。それで柱をあげる約束をして、荷物を積んで行つて、帰って来るときに、いい日よりもって石廊崎のこへ来たら思い出して、柱をあげてクワナまで帰った。

そんなときに、その海坊主がオカへあがつて、ピーピーせって笛を吹いて按摩になった。そしてトクソウのオカミさんがもみ殺されちゃったと。それで、うちへ来たなら女房が死んじゃった。「あー、これで俺は、もう船行かれねんだな」とせって、オカへあがつちゃったと。

もう百十にもなんけんとな、うちの親父丈夫ならその人が言つてたよ。こつち言つたから、盆の十六日には船は出んもんじゃねえどって。

※話者は阿部川益吉氏、挿絵は荒牧孝子さん
大磯町文化財調査報告書第27集「むかしがたり」より抜粋

大磯の二十六夜待

飯田 善雄¹⁾

二十六夜さんは、町内によってはあり～海岸沿いの南下町・北下町・西小磯東・西小磯西・国府本郷・国府新宿～講があったかはっきりしないが、急仏仲間の年寄りの女衆が9月の二十六夜さんの日に、月の出を待って急仏を申しながら、阿弥陀さんが舟に乗って上ってくるのを拝んだという。

現在、二十六夜さんは、大正7・8年頃、関東大震災後、20年位前、10年位前、3年前等に止め行なわれていない。国府本郷の中丸地区では、9月8日のテントウ急仏の日に、わざつとだが急仏だけは喝え（²⁾）ているという。なお、大磯町では、今回の調査で月待供養塔の所在を確認することができなかった。

以下、老人会の席上、あるいは個人的に聞き取りしたことを述べる。

（南下町）

柴山シツさん（明治41年生）によると、南下町で3年前まで小人数で二十六夜さんの急仏を女衆だけが参加しやっていた。昔は浜でやっていたが、その後堤防の降り口の角に外灯があり、ここにムシロを敷いてやった。また、急仏をやる年寄りの女衆も15、6人いたが、だんだん減り、3人になってしまったので止めたという。

毎年9月の二十六夜さんの夜、お茶・お菓子を持って行って上げ、急仏を申したり、茶菓子を食べながら世間話を花をさかせ、月の出を待ち、剣の形で上ってくる月を拝んだ。

（北下町）

榎本キクさん（大正1年生）によると、二十六夜さんの夜、年寄りが海岸で、舟の形をした月が上がるのを待ってお急仏を申した。大抵、夜あかしなので食うものを持って行

た。男衆も参加し、花札などやっていたという。榎本さんの子どもの頃（大正7・8年）はあったという。

（西小磯東）

鈴木ハナさん（明治35年生）によると、西小磯東では、10年位前まで急仏講に入っている年寄りの女衆が20人位、大日堂（真言宗の寺、今は西小磯東老人憩の家）の下の海岸でやっていたという。

毎年違うが、9月の二十六夜さんの日、夜11時頃、アズキ飯・ニシメ（昔はおづき、その後茶碗に入れた）・茶菓子・お茶・水を持って行き、ミシロの上に紙を敷いて上げ、チャンチャン急仏を申したり、上げたものを食べたりしながら月の出を待った。2時頃、月が舟のかっこうででてくる。そのお舟に阿弥陀さんが乗ってでる。これをナムアミダブツ、ナムアミダブツとお急仏を喝えながら拝む。「キミヨウチョウライ穴夜さん、二十六夜の御来光、拝むとすれば雲がくれ、雲には邪見はないけれど、この身が邪見で拝まれねえ、心あらため身を清め、また来る穴夜を拝みます」という歌があるように、実際は曇っていたりして、なかなか拝めなかったという。雨の日は大日堂で急仏を喝えた。また、月が見えないので、滄浪閣の下あたりまで拝みながら行くこともあった。

（西小磯西）

仲手川定三さん（明治36年生）によると、大正7・8年頃まであったという。二十六夜さんの日に、急仏講の年寄りの女衆が浜の土手へムシロを敷いて、お供えものをして、急仏をやって月の出るのを待っていた。ニギリを持って行った。子ども達も見えていたので、寝てはいけなと言われたという。細い月に阿弥陀さんが光って見える。細い月の先に光

るものがある。普通は見られないが、拝めると幸せがくると言われていたという。

(国府本郷)

露木マサさん(明治37年生)の話では、丸では20年位前まで二十六夜さんの念仏があったという。現在、9月8日のテントウ念仏の日に、日の出・日の入り・二十六夜の念仏を、わざざとだがいっしょにやり、昔の名残りをとどめている。二十六夜さんは、十五夜さんのあとで、念仏講の女衆がムシロ・お茶・お茶菓子を持って浜(川尻)へ夜おそく行き舟のように細くなった月に阿弥陀さんが上がられるのを念仏を申しながら拝むのだという。

(国府新宿)

国府新宿の上町では、大正10年にお嫁にきた原コウさん(明治32年生)によると、二十六夜さんは9月で、町内のお念仏をやる年寄りの女衆が7・8人、夜、浜に行ってお念仏を申した。念仏をやる場所は、海岸の松林の中に平らな所があり、今はないがそこに石の祠が東を向いてあり、ここにムシロを敷いてやった。細い月を見るため寝ないで番をしているが、やたら見れない。たいがい晴れていなかったという。関東大震災以後はやらなかった。

国府新宿の原町では、杉山カツさん(明治40年生)によると、本人は一度もやらなかったが、20年位前まで二十六夜さんの念仏があったという。講はなかったが、念仏する人と呼びかけて9月の二十六夜さんの日に、10人位の女衆がゴザ・線香・お茶菓子を持って浜へ行った。9時過ぎてから行き、夜更けに月の上るのを拝むのだが、待ちきれないで町内のシオウ堂で待っていたという。杉山さんの母が夜中に帰ってきて「阿弥陀さんが舟に乗って上ってこられた」「まあ、今夜はありがた

かったよう。いい阿弥陀さんを見ることができた」「今夜見れてありがたかったよう」などと言っていたという。

最後に今回の調査に協力をいただいた老人会長さん、個人的に聞いた方々の名前を記した。(順不同・敬称略)

高橋光造 (明治39年生・高峯)	柴山シヅ (明治41年生・大磯)
榎本キク (大正1年生・大磯)	日守吉平 (明治35年生・大磯)
飯田ミエ (明治36年生・大磯)	渡辺アサ (明治37年生・東小磯)
江藤利 (大正6年生・西小磯)	鈴木ハナ (明治35年生・西小磯)
仲手川定三 (明治36年生・西小磯)	竹内千吉 (明治41年生・生沢)
一石栄蔵 (明治36年生・生沢)	杉崎富士 (明治36年生・寺坂)
守屋常太郎 (明治40年生・黒岩)	二宮道明 (明治28年生・虫窪)
露木マサ (明治37年生・国府本郷)	原田ユミ (明治34年生・国府本郷)
杉山カツ (明治40年生・国府新宿)	原コウ (明治32年生・国府新宿)
近藤ダイ (明治41年生・月京)	平田トメ子 (大正8年生・大磯)
熊沢タケ (大正5年生・西久保)	

- 1) 大磯町立国府中学校教頭
- 2) 昭和58年6月～12月に実施した月待供養塔・講の聞きとり調査による。

郷土資料館着工される！

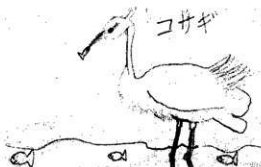
6月15日(月)、近隣住民および工事関係者が多数出席し、起工式がとりおこなわれました。

当日は、あいにくの雨でしたが、席上、高島町長より「雨降って地固まる」との機知に富んだ挨拶があり、来年10月オープンを目指しいよいよ郷土資料館の工事が始まりました。

なお工事中は、安全について万全を期しておりますが、皆様方のご協力よろしくお願いします。

大自然なんでも観察ノート③ ～コサギ～

さむ川のせきに、コサギを見に行きました。あゆがせきをのぼろうとして、と中まで来ても、すぐ落ちてしまいます。コサギは、10わぐらいせきのまん中でまちがせていて、あゆが登ってくると、それを取ってまるのみしてしまいます。あゆは、下から上までの間にコサギに食べられないで、上がったのは3・4ひきで、25ひきぐらい食べられていました。ぼくは、コサギは、鳥なのに、まちがせをするので、びっくりしました。家の近くの、ふどう川にも、たまに、コサギがきます。コサギは「グワー」と鳴きます。食べ物、だい



たい小さな魚をまるのみします。小さな魚をまるのみするけど、口ばしが短いことがわかりました。

(国府小5年 渡辺拓也)

～寄贈資料(5月～6月)～

ご協力まことにありがとうございました。

(順不同・敬称略)

資 料 名	受 入 先	地区名
テツカブト他	大久保松五郎	大磯
マイワイ他	宮代伊佐雄	大磯
ヒノシ他	吉川忠雄	大磯
ハエトリキ	大久保幸造	東町
漁具一括	石井安五郎	大磯
サシボウ	阿部川益吉	大磯
調度品一括他	関野好一	大磯
古写真他	国府支所	
裏打紙	栗原平太郎	東小磯
書籍一括	中里育夫	東小磯
伊藤博文写真	宗像盛久	横浜市

～資料室のうごき～

5/7 中地区文化財担当者会議

8 大磯小PTA史跡めぐり打合せ

22 資料館展示用化石採集

26 国府小PTA史跡めぐり

27～30

図書館収蔵庫燻蒸

28 郷土資料館施設打合せ

6/3 大磯小PTA史跡めぐり

15 郷土資料館新築工事着工

19 新採用教員研修

23・25

幼稚園指導者研修会

29 文化財専門委員会

昭和62年7月31日 発行

編集発行 大磯町教育委員会社会教育課

所在地 大磯町東小磯183

T E L 0463 (61) 4100